

相談できる日本人の精神科医・カウンセラーかいたと答えた駐在員 15 名 (13%) 中、その存在か「非常に」「かなり」または「少しは」心の支えや安心感につながった者は 67%であった。家族では、3 名 (4%) 中 100%であった。

一方、そういった存在はなかったと回答した駐在員 95 名 (82%)、家族 59 名 (84%) のうち、その存在かあればよかったと答えた者は駐在員で 22% 家族で 51%であった。

レクリエーションやボランティア活動

SARS ウィルスを警戒しなから生活する中で、野外で新鮮な空気を吸いながら行うスポーツや散歩などは、それらがあったと答えた駐在員 79 名 (68%) 家族 21 名 (30%) 中、それぞれ 90%、95%の者にとって「非常に」「かなり」または「少しは」心の支えや安心感につながっていた。

SARS 患者や医療関係者、打撃を受けた香港社会経済を励ますため、香港在住日本人は、個人や組織で寄付をしたり千羽鶴を贈呈したりと、様々な形でボランティア活動を行った。それらに参加したことは、駐在員 37 名 (32%)、家族 34 名 (49%) 中、それぞれ 81%、82%の者にとって「非常に」「かなり」または「少しは」心の支えや安心感につながっていた。

香港政府の情報開示

SARS に関する情報（症状 予防法、入退院者数、感染者発生ヒル等）の公開は、それらがあったと答えた駐在員 109 名 (94%)、家族 54 名 (77%) のうち、それぞれ 95%、87%の者にとって「非常に」「かなり」または「少しは」心の支えや安心感につながっていた。

自由回答より

既存の項目以外に心の支えや安心感につながった出来事を探ねたところ、駐在員 家族双方に、「日本人に感染者かてなかったこと」という回答がみられた。駐在員からは、「最後に頼りになるのは自分」、「中国政府が本腰で取り組む姿勢がわかった時」、といった回答があった。

(8) 日本社会の SARS 対応に対する意見

予備調査で、SARS 当時困ったことや不満だったことを尋ねたところ、日本のマスコミ、政府、勤務先の海外赴任者への対応に関する意見が多かった。よって、アンケート票ではこれらに対し自由回答で意見を求めた。

1) 日本のマスコミの対応

香港では NHK (有料) を見ることも出来、日本の新聞や雑誌を読むことも出来る。

駐在員からは、SARS を取り上げたタイミングが香港の流行のピーク後であったこと、感染地域に住む当事者への配慮が欠如していること、報道内容が過剰かつ偏っており、いたずらに読者 視聴者の不安を煽ったこと、などが指摘されていた (回答率 83%)。

家族からは、以上の項目に加え、帰国時に自らが取材対象になることへの不安や、報道が SARS 感染地域住民への差別を助長した可能性があることか指摘されていた (回答率 91%)。

2) 日本政府の対応

駐在員からは、政府の対応に評価や理解を示す回答もある一方で、厚生労働省 外

務省間の連携のせさ、感染地域在留邦人への支援の必要性、10日間目王隔離勧告の夫幼性の疑わしさや空港検疫の不徹底さ、国としての主体性の欠如、一時帰国子女の学校受け入れ問題などが指摘されていた（回答率 82%）。家族もほぼ同様の回答であった。SARS 当時帰国した家族からは、空港の検疫で検温もないまま素通りしてきたことや中国系の人々か入国していた様子か伝えられている（回答率 89%）

3) 勤務先（企業）の海外赴任者への対応

駐在員では、対応に満足する声の一方、病原菌扱いされたことへの怒り、本社優先の姿勢、冷たい印象、現地の実態への理解不足、対応の遅さや過剰さ、欧米企業とのえ、主体性の欠如を指摘する声があった（回答率 78%）。

家族では同様の指摘に加え、会社への要望か多く見られた。正しい情報の発信、家族用のマスクや消毒用品など物質面の支援、勤務者の安全への配慮、礼毛提供などの帰国生活のフォロー、会社か家族の帰国を命することへの賛成・反対意見などである（回答率 90%）。

(9) 自由回答欄より

アンケート票の最後に、その他の意見や感想（あれはよかったと思うこと、SARS 禍で良かった点、大変だったこと等）を尋ねた。（回答率 駐在員 27%/家族 41%）

駐在員でも家族でも、改めて日本のマスクミ 日本政府 本社への批判か述べられた。以下はそれ以外の項目である。

1) SARS 禍のプラス面

駐在員も家族も、香港社会の衛生観念の

向上、同僚や友人との支えあいや連帯感、インターネットやメールなど IT 技術の恩恵、困難を乗り越えたことかいい経験となったこと、などを指摘している。

2) その他

駐在員では、SARS に特定した過剰対応への疑問、日本人のメンタリティー、中国香港への要望や中国と香港との関係か指摘されていた。家族では、SARS 禍での不支を抱えた生活、帰国時の学校や病院などの対応への不満、SARS 再発への不支か述べられている。

考察

(1) SARS による不安とストレス

今回の調査では、駐在員の 24%および家族の 17%か身近に SARS 感染者又は疑い例か発生したと回答した。今回の調査では、アンケート回答者か答えた「SARS 感染者又は疑い例」か SARS であると確定診断されたかどうかに関する質問は行っていない。駐在員やその家族か、正確な確定診断結果を知ることは難しいと判断したからである。従って、実際に SARS と確定診断された人と接触した可能性のある人の割合は、今回の調査結果よりも低いと考えられる。しかし、今回の結果で特徴的だったのは 夫際に SARS 感染者と接触していない人たちも含め、香港に居住していた人ひとの間で、感染に対する心配や SARS で死ぬかもしれない不安か渦巻いていたことだった。「自分も SARS で死ぬのではないか」という思いを少しでももった者は、駐在員の 41%、家族の 41%にのぼり「家族か感染しないか心配だった」者は、家族を帯同していた駐

在員の78%、家族の87%を占めた。また、「ウィルスという目に見えないものを相手にしていたこと」は駐在員の94%、家族の96%にとってストレスになっていた。

長尾ら(1998)が行った堺市におけるO157 集団感染の精神的影響の調査によると、下痢症などの感染を発症していない児童の約23%が、O157により自分も死ぬかもしれないと意識したことかあった。このように 感染症による恐怖は、感染した人だけでなく 感染源の近くにいた未感染者にも影響を与えることか知られている。今回の調査結果も、同様であった。香港在住の日本人駐在員とその家族にとって、実際にSARS感染者と接触したかどうかにかわりなく、多くの人か、SARSに対する不安と恐れを感じていたことか明らかとなった。

(2) 情報提供のあり方

今回の調査では、「新しい病気ゆえ、多くの情報かあっても、何か正しいのかわからなかったこと」か大きなストレス要因となっており、駐在員の93%、家族の94%か「非常に」「かなり」または「少しは」ストレスになっていたと回答した。SARS 流行時の情報源は、多岐にわたっていたか 駐在員、家族とも社内情報、日本のテレビニュース、日本の新聞か上位を占めた。今回の調査で興味深い結果として、アクセスの多い情報源と信頼されている情報源に大きな違いか見られたことであった。駐在員 家族ともに最も信頼していた情報源は、社内情報と香港衛生署のホームページであった。勤務先で提供されるSARS 関連情報は時宜にかなった的確な情報を入手することかでき、

香港政府の情報開示の姿勢か高く評価された結果であろう。また、地元英字新聞で感染者の発生したヒルを公表するようになってとこに行ってはいけなにかわかり女心した回答者もいた。しかし、日本のテレビや新聞(アノア版)は情報源としてのアクセスは多かつたか、信頼したと答えた者はこく少数に過ぎなかつた。むしろ、被害当事者に対する配慮に欠け パニックを増長するような報道に偏っていた日本のマスメディアの報道姿勢に対する批判か多く見られた。

緊急時の情報提供のあり方に関しては、すでに種々の研究かおこなわれている。チェルノブイリ原発事故の汚染地域にはあらゆる風評か出回っており、メディアかまたそれらを広範囲に流布していた(Revel 2001)。東海村臨界事故においては、正確でない情報や不正確要素かある情報は、かえって不安を喚起させたという報告も行われている(袋下ら 2002)。一方、東海村においても、チェルノブイリにおいても、遠方の住民よりも事故現場に近い住民の方か事故後の精神健康度の回復か早かつたことかわかっている。これは近接地域の住民の方か事故に関する情報か入手しやすく、不安か修正されやすいためではないかと考えられている(今 2001)。

適切で正確な情報提供は、心理社会的サポートの重要なツールである。高度情報化社会にあって、SARS に関する情報は、テレビ、新聞、インターネット、口コミなど、すべてのメディアを通して流され続けたといえる。そして、香港在住の日本人社会においても、日本語、英語、中国語など多言語による情報の入手か行われていた。しか

し、今回の調査結果で、社内情報と香港衛生署のホームページが突出して信頼されていたことを真摯に受け止める必要かあろう。社内情報に関する信頼性が高かった理由としては、情報発信者の顔が見えること、情報の受け手に必要な情報を取捨選択して情報提供していること、場合によっては情報の受け手との双方向性をもつことなどがあげられる。一方、香港衛生署のホームページでは、具体的な症状や予防法、最新の入院者数、感染者発生地の名前などを公開しており、香港政府の情報公開の強い姿勢が高い評価につながった。

また、流行時に感染地域在住日本人の情報判断を助けて不慮を軽減するためには、日本人の感染症の専門家か早い段階で現地に赴き、現地状況の把握や在住者の相談に対応することも望まれる。

(3) 心理社会的サポート

今回の SARS 禍の香港日本人社会では、さまざまな形での人びとの支えあいや自発的に生じ、それが情緒面での働きかけという心理社会的サポートにつながっていた。

「香港に留まった人たちとの電話 メールや集まり」あるいは「日本や外国の家族 実家や友人からのお見舞い」は、駐在員、家族ともに 90%以上の人か、心の支えや安心感につながったと答えていた。駐在員のうち、家族と一緒に香港に留まった者は、そのことか大きな心の支えとなっていた。

「自分か家族を守るんだ、という気持ちで（一旦帰国していた家族を）呼び寄せ、結果的には家族の絆も強くなった」という意見も聞かれた。また、日本人有志か香港の SARS 克服を祈って千羽鶴を折り、SARS

患者や医療関係者に届けるといったボランティア活動も、参加者とうしの自然な支えあいの場になっていた。

一方で、SARS 流行時の 2003 年 3 月から 5 月末ころには、「日本から見捨てられた気がした」と回答した者か、駐在員の 65%、家族の 60%にのぼっていた。また、一時帰国した家族のうち、日本で体験入学を拒否されるなど嫌な思いをした人もいた。

今回は SARS 禍か終息したあとの横断的調査であり、心理社会的サポートと心身の健康の因果関係を明らかにすることはできなかった。また、香港の日本人社会では、家族や友人という私的なネットワークを通して、自然発生的な支えあいか生じていた。また、日本からの見舞いや励ましか海外赴任者にとって大きな支えとなっていたことにも注目したい。感染症流行時に海外赴任者の孤立感を防くためには 日本からのメールや電話による見舞いや励ましか有効であろう。

謝辞

こ多忙の中、研究の構想について貴重な助言を下さった、国立療養所榊原病院の長尾圭造先生、学習院女子大学カウンセリクルームの中川真由美先生、東京都精神医学総合研究所の飛鳥井望先生、また、現地の心理社会的サポートについてご経験をお話下さった The University of Hong Kong, Faculty of Medicine, Department of Psychiatry の Dr Antoinette M Lee に、深く感謝申し上げます。

そして、たたてさえ業務で多忙を極めていらっしやるにもかかわらず、インタビュー及びアンケート調査を快く引き受けて下

さった香港の皆様、また、調査の遂行に惜しみなくお力をかして下さった皆様のご厚意に心から御礼申し上げます。調査の匿名性ゆえ、ここに一人ひとりのお名前を挙げられないことをどうかお許し下さい。

参考引用文献

香港衛生署ホームページ
<http://www.info.gov.hk/info/sais/erindex.htm>

全吉晴 2001 「外傷ストレス関連障害の病態と治療ガイドラインに関する研究 主任研究者総括」*精神・神経疾患研究委託事業外傷ストレス関連障害の病態と治療ガイドラインに関する研究平成12年度研究報告書* 国立精神 神経センター 精神保健研究所 千葉 pp 7-15

国立感染症研究所感染症情報センターホームページ

http://idsc.nih.go.jp/index_j.html

Machel, G, The Impact of war on Children, C Huist & Co, Ltd, 2001, London, pp 80

Matteson, M A, McConnell, E S, 1988, Gerontological nursing Concepts and Practice, WB Saunders Company, Philadelphia, USA, 大川嶺子ほか訳 『看護診断にもとづく老人看護学4 心理社会的変化とケア』 医学書院 1994 東京

袁下成子ほか 2002 「東海村臨界事故による学生の精神健康への影響とその特徴(特集 PTSD 研究のフロントライン)」*精神保健研究* Vol 48,

No 15 国立精神 神経センター 精神保健研究所 千葉 pp 11-21

長尾圭造ほか 1998 「小学生におけるPTSD症状—腸管出血性大腸菌 O-157 集団発症のアンケート調査を中心として—」*児童青年精神医学とその近接領域* Vol 39, No 2 日本児童青年精神医学会 京都 pp 176-192

岡部信彦 2003 「SARSの病態、疫学」*公衆衛生* Vol 67, No 11, 医学書院 東京 pp 814-819

Revel, J P, 2001, "Meeting psychological needs after Chernobyl The Red Cross experience", *Military Medicine* Vol 166(12, Suppl 2), pp 19-20, Assn of Military Surgeons of the US, Lambertville, USA

SARS Expert Committee, 2003, "SARS in Hong Kong from Experience to Action", <http://www.sars.expert.com.gov.hk/english/reports/reports.html>

世界保健機関 (WHO) ホームページ <http://www.who.int/csr/sars/en/> WHO Global Conference on Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS) Summary report http://www.who.int/csr/sars/conference/june_2003/materials/report/en/print.html

在香港日本国総領事館ホームページ

http://www.hk.emb.japan.go.jp/index_j.html

資料 1 「SARS への個人の対応アンケート」 調査結果<駐在員、n=116>

ロ)性別

性別	人数	%
男性	112	96.6%
女性	2	1.7%
無回答	2	1.7%
合計	116	100.0%

ハ)×年齢

年齢	人数	%
27-29	2	1.7%
30-39	58	50.0%
40-49	39	33.6%
50-59	15	12.9%
無回答	2	1.7%
合計	116	100.0%

三)×婚姻状態

婚姻状態	人数	%
独身	11	9.5%
既婚	104	89.7%
無回答	1	0.9%
合計	116	100.0%

ホ)×赴任形態

赴任形態	人数	%
単身	41	35.3%
家族帯同	73	62.9%
無回答	2	1.7%
合計	116	100.0%

ホ)×帯同した家族の内訳 (n=73)

帯同した家族の内訳	人数	%
おとなと子ども (学齢前の子含む)	27	37.0%
おとなと子ども (学齢期の子のみ)	20	27.4%
おとなのみ	25	34.2%
無回答	1	1.4%
合計	73	100.0%

× 印の項目は 2003 年 4 月 1 日時点の状況。

へ)×香港滞在年数

香港滞在年数	人数	%
1年未満	26	22.4%
1年以上2年未満	32	27.6%
2年以上3年未満	22	19.0%
3年以上4年未満	15	12.9%
4年以上5年未満	10	8.6%
5年以上	9	7.8%
無回答	2	1.7%
合計	116	100.0%

ト)香港以外の海外駐在経験

香港以外の海外駐在経験	人数	%
あり	68	58.6%
なし	47	40.5%
無回答	1	0.9%
合計	116	100.0%

チ)×居住地区

居住地区	人数	%
香港島	100	86.2%
九龍	14	12.1%
新界	1	0.9%
その他	0	0.0%
無回答	1	0.9%
合計	116	100.0%

リ)×居住環境

居住環境	人数	%
マンション	110	94.8%
一戸建て	0	0.0%
その他	5	4.3%
無回答	1	0.9%
合計	116	100.0%

その他 ホテル、サービスアパート

A SARSが流行する前(3月半ば以前)の自身の状況

非常にあてはまる(1) かなりあてはまる(2)
少しはあてはまる(3) まったくあてはまらない(4)

	1	2	3	4	無効回答	合計
【1-a】香港での駐在生活でストレスかたまりがちだった	6	11	57	41	1	116
	5.2%	9.5%	49.1%	35.3%	0.9%	100.0%
【1-b】日本に帰りたと思っていた	1	2	32	80	1	116
	0.9%	1.7%	27.6%	69.0%	0.9%	100.0%

B SARS 流行当時（3月半ば～5月末）の自身の行動や考えおよび周囲の状況

【2】 出張や休暇等で香港を離れる事があったか

	人数	%
1) ずっと香港を離れていた	2	1.7%
2) ほとんど香港を離れていた	1	0.9%
3) 時々香港を離れた	52	44.8%
4) 全く香港を離れなかった	61	52.6%
合計	116	100.0%

【3】 既にあった自分の一時帰国予定を延期又は中止したか

	人数	%
1) はい	31	26.7%
2) いいえ	20	17.2%
3) そもそも一時帰国の予定はなかった	64	55.2%
無回答	1	0.9%
合計	116	100.0%

延期又は中止の理由（重複回答）（n=31）

延期又は中止の理由(n=31、重複回答)	人数	%
a) 万が一自分が感染源になることの原因を感じた	17	54.8%
b) 10日間自主隔離できる場所がなかった	3	9.7%
c) 帰国先から断られた	10	32.3%
d) その他	8	25.8%

その他(8名)

上司からの要請のため

会社からの命令

会社の方針

会社からの指示

会社の10日間隔離規定と10日間業務から離れる事は不可能

駐在員としての業務責任から不在にできなかった

・ 日本へ帰っても知人や旅先で嫌がられるのでは楽しくないから

飛行機内で感染するリスクを避けるため

【4】 家族帯同者への質問 SARSで家族が一時帰国し、単身の生活になったか

n=73	人数	%
1) はい	57	78.1%
2) いいえ	15	20.5%
無回答	1	1.4%
合計	73	100.0%

単身生活の期間(n=57)	人数	%
a) 1ヶ月未満	7	12.3%
b) 1ヶ月以上3ヶ月未満	39	68.4%
c) 3ヶ月以上	11	19.3%
合計	57	100.0%

【5】 身近に感染者または疑い例が出たか

身近な感染者	人数	%
出た	28	24.1%
出なかった	88	75.9%
合計	116	100.0%

出た場所(n=28、重複回答)	人数	%
a) 住んでいるマンション	5	17.9%
b) 職場	15	53.6%
c) 取引先	2	7.1%
d) 職場の人の住居	8	28.6%
e) その他	4	14.3%

その他 近所のマンション、業務委託会社員、等

【6】 SARSから身を守るためにしていたこと（重複回答）

順位	SARS予防のためにしていたこと(重複回答)	人数	%
1	4) 外出後のうがい手洗い	109	94.0%
2	1) 外出時のマスク着用	104	89.7%
3	15) SARS情報の入手	76	65.5%
4	9) 十分な睡眠	55	47.4%
5	14) 外食先は信頼かおける店に限定した	53	45.7%
6	10) 適度な運動	52	44.8%
7	8) ハランスの取れた食事	45	38.8%
8	3) 外出時の消毒用品の携帯	40	34.5%
9	12) 外出は必要最低限に控えた	36	31.0%
10	13) 買い物は頻度を減らし、まとめ買った	25	21.6%
11	5) 外出後のシャワー	23	19.8%
12	7) 下水道の消毒	19	16.4%
13	6) 希釈した漂白剤での家の拭き掃除	18	15.5%
14	11) こまめな検温	9	7.8%
15	2) 外出時の手袋の着用	2	1.7%

順位	SARS 予防のためにしていたこと(重複回答)	人数	%
16	16)その他(事務用品等の消毒)	1	0.9%
17	無回答	0	

【7-a】 公共の乗り物を利用する時にしていた注意 工夫（自由記述）（回答率 91%）

乗り物の選別

バス 地下鉄は極力避け、必要時はやむなくタクシー利用
マンションのシャトルバスを使うようにした
エレベーターも控えた

利用時の注意

込み合った乗り物は避ける。
しゃべっている人、咳きくしゃみをした人、衛生感に乏しいと思える人から離れる。
マスク着用
できるだけ素手でつり革 手すり 座席等を触らないようにした
・ ドアの近くに立つ
・ フェリーの場合は窓、開放部のそばに座っていた
窓を開けた
利用後の手洗いうがい

その他

特になし。マスクも無着用

【8】 SARS 関連情報入手に使用した言語（重複回答）

重複回答	人数	%
1)日本語	104	89.7%
2)英語	94	81.0%
3)広東語	12	10.3%
4)北京語	4	3.4%
5)その他	0	0.0%

【9】 SARS 関連情報の入手先（重複回答）

情報入手先 メディア別 (n=115*, 重複回答)	人数	%
1)テレビニュース		
d)日本版	73	63.5%
b)地元英語版	58	50.4%
a)地元中国語版	32	27.8%
c)国際英語版	19	16.5%

情報入手先メディア別 (n=115*、重複回答)	人数	%
e)その他	0	0.0%
無効回答	2	1.7%
2)新聞		
c)日本の新聞のアジア版	68	59.1%
b)地元英語版	58	50.4%
d)地元日本語情報誌	44	38.3%
a)地元中国語版	14	12.2%
e)その他	2	1.7%
3)インターネットホームページ		
a)香港衛生署	60	52.2%
b)在香港日本総領事館	55	47.8%
c)WHO	32	27.8%
d)地元日本語情報誌ネット版	29	25.2%
e)厚生労働省	13	11.3%
f)その他	8	7.0%
4)その他		
a)社内情報	86	74.8%
c)友人間の口コミ	49	42.6%
b)企業間のミーティング	27	23.5%
d)総領事館主催の医務官による説明会	21	18.3%
e)その他	2	1.7%

*116名中1名が全項目無回答ゆえ n=115

2)新聞、e)その他

職場で翻訳された地元中国版新聞
NNA

3)インターネット、f)その他

香港掲示板
米国 CDC(2名)
Yahoo SARS 特集(3名)
2ちゃんねる
「番朝」個人運営 HP、<http://jbbs.shitaraba.com/study/1914>
ネットの板 (geocities 等)

4)その他、e)その他

- ・ 同一業種の他社情報
日本の医師 薬剤師 香港の医師

順位	情報入手先(n=115、重複回答)	人数	%
1	a)社内情報(その他)	86	74.8%
2	d)日本版(テレビ)	73	63.5%
3	c)日本の新聞のアジア版(新聞)	68	59.1%
4	a)香港衛生署(インターネット)	60	52.2%
5	b)地元英語版(テレビ)	58	50.4%
5	b)地元英語版(新聞)	58	50.4%
6	b)在香港日本総領事館(インターネット)	55	47.8%
7	c)友人間の口コミ(その他)	49	42.6%
8	d)地元日本語情報誌(新聞)	44	38.3%
9	a)地元中国語版(テレビ)	32	27.8%
10	c)WHO(インターネット)	32	27.8%
11	d)地元日本語情報誌ネット版(インターネット)	29	25.2%
12	b)企業間のミーティング(その他)	27	23.5%
13	d)総領事館主催の医務官による説明会(その他)	21	18.3%
14	c)国際英語版(テレビ)	19	16.5%
15	a)地元中国語版(新聞)	14	12.2%
16	e)厚生労働省(インターネット)	13	11.3%
17	f)その他(インターネット)	8	7.0%
18	e)その他(その他)	2	1.7%
18	e)その他(新聞)	2	1.7%
20	e)その他(テレビ)	0	0.0%

【10】 上記のうち、最も信頼していた情報入手先（自由記述）

順位	最も信頼した情報入手先	人数	%
1	a)社内情報(その他)	24	20.7%
2	a)香港衛生署(インターネット)	20	17.2%
3	特になし、取捨選択し自身で判断、等	8	6.9%
4	d)地元日本語情報誌(新聞)	5	4.3%
5	b)地元英語版(新聞)	4	3.4%
5	c)WHO(インターネット)	4	3.4%
5	「総領事館」とだけ書いたもの	4	3.4%
8	a)地元中国語版(テレビ)	3	2.6%
9	d)日本版(テレビ)	2	1.7%

順位	最も信頼した情報入手先	人数	%
9	d)地元日本語情報誌ネット版(インターネット)	2	17%
9	b)企業間のミーティング(その他)	2	17%
9	f)その他(インターネット)	2	17%
13	b)地元英語版(テレビ)	1	09%
13	c)国際英語版(テレビ)	1	09%
13	a)地元中国語版(新聞)	1	09%
13	e)厚生労働省(インターネット)	1	09%
17	c)日本の新聞のアジア版(新聞)	0	00%
17	b)在香港日本総領事館(インターネット)	0	00%
17	c)友人間の口コミ(その他)	0	00%
17	d)総領事館主催の医務官による説明会(その他)	0	00%
17	e)その他(テレビ)	0	00%
17	e)その他(新聞)	0	00%
	無効(テレビ、といったものや、2個以上あげているもの)	20	172%
	無回答	12	103%
	合計	116	1000%

【11】 4月1日に少年のテマが流れた時は、自分あるいは家族か食料の買出しに行ったか。

	人数	%
1) はい	8	69%
2) いいえ	106	914%
無効無回答	2	17%
合計	116	1000%

【12】 SARS 流行当時ストレスになったこと

非常にストレスになった(1) かなりストレスになった(2)
 少しはストレスになった(3) まったくストレスにならなかった(4)

	1	2	3	4	無効回 答	無回答	合計
12-1 ウィルスという目に見えないものを相手にしていたこと	36	39	34	6	0	1	116
	310%	336%	293%	52%	00%	09%	1000%
12-2 新しい病気ゆえ、多くの情報があっても、何が正しいのかわからなかった	34	39	35	7	0	1	116

	29.3%	33.6%	30.2%	6.0%	0.0%	0.9%	100.0%
12-3 SARS 対策のための仕事が増えたこと	10	27	44	31	0	4	116
	8.6%	23.3%	37.9%	26.7%	0.0%	3.4%	100.0%
12-4 家にこもっていたこと	11	23	43	32	3	4	116
	9.5%	19.8%	37.1%	27.6%	2.6%	3.4%	100.0%
12-5 香港に押し込められている感覚	24	28	32	28	1	3	116
	20.7%	24.1%	27.6%	24.1%	0.9%	2.6%	100.0%
12-6 自分を含めて家族や会社から一人も感染者を出してはならないということ	39	32	30	14	0	1	116
	33.6%	27.6%	25.9%	12.1%	0.0%	0.9%	100.0%
12-7 家族が帰国している間の掃除 洗濯等	3	15	28	46	18	6	116
	2.6%	12.9%	24.1%	39.7%	15.5%	5.2%	100.0%
12-8 SARS がなければ出来たはずのこと（帰国、旅行、結婚式やお葬式への出席等）が延期や中止になったこと	19	26	36	26	2	7	116
	16.4%	22.4%	31.0%	22.4%	1.7%	6.0%	100.0%

12-9 その他（12名回答）

- ・ カラオケ等皆が集まってストレス発散する場に行けなかった(1)
映画館カラオケレストラン等へ行けなかったこと(1)
仕事か遅れていること(1)
仕事が進まない(1)
日本との出張の往来が禁止されたこと(1)
出張できないこと(数字なし)
オフィスにずっとこもっていたこと(1)
少々の体調不良ですら気になった(1)
疎外感(1)
日本での過剰報道(1)
SARS 単身者が増えたので外食が多く、出費が高かったこと(2)
- ・ 出入境時の検温による混雑(2)
業務出張での感染リスク(4)

【13】 SARS 流行当時（3月半ば～5月末）の気持ち 考え方そして体調

非常にあてはまる（1） かなりあてはまる（2）
 少しはあてはまる（3） まったくあてはまらない（4）

	1	2	3	4	無効回 答	無回答	合計
13-1 自分も SARS にかかったのではないかと 思ったことがある	4 3.4%	6 5.2%	29 25.0%	77 66.4%	0 0.0%	0 0.0%	116 100.0%
13-2 ひょっとしたら自分も SARS にかかって 死ぬのではないかと考えたことがある	3 2.6%	8 6.9%	36 31.0%	69 59.5%	0 0.0%	0 0.0%	116 100.0%
13-3 SARS 関連情報を見聞きするのを、 避けていた時期がある	0 0.0%	3 2.6%	5 4.3%	108 93.1%	0 0.0%	0 0.0%	116 100.0%
13-4 仮に自分または家族に SARS が疑わ れる時、具体的に何をしたらよいかよ く知っていたと思う	22 19.0%	40 34.5%	36 31.0%	17 14.7%	0 0.0%	1 0.9%	116 100.0%
13-5 家族が感染しないか心配だった	20 17.2%	26 22.4%	15 12.9%	42 36.2%	8 6.9%	5 4.3%	116 100.0%
13-6 子どもの学校の再開時期や勉強の遅 れが気かりだった	12 10.3%	12 10.3%	13 11.2%	30 25.9%	42 36.2%	7 6.0%	116 100.0%
13-7 SARS 自体よりも、感染者が出たこと で一時的に働けなくなることを恐れた	12 10.3%	22 19.0%	34 29.3%	44 37.9%	1 0.9%	3 2.6%	116 100.0%
13-8 日本から見捨てられた気がした	23 19.8%	27 23.3%	25 21.6%	38 32.8%	0 0.0%	3 2.6%	116 100.0%
13-9 煙草や飲酒の量が増えた	5 4.3%	12 10.3%	19 16.4%	77 66.4%	1 0.9%	2 1.7%	116 100.0%
13-10 間食が増えた	3 2.6%	3 2.6%	13 11.2%	94 81.0%	1 0.9%	2 1.7%	116 100.0%
13-11 疲れやすかった	5 4.3%	21 18.1%	19 16.4%	70 60.3%	0 0.0%	1 0.9%	116 100.0%
13-12 頭痛がした	1 0.9%	5 4.3%	7 6.0%	102 87.9%	0 0.0%	1 0.9%	116 100.0%
13-13 胃腸を悪くした	1 0.9%	2 1.7%	8 6.9%	104 89.7%	0 0.0%	1 0.9%	116 100.0%

	1	2	3	4	無効回 答	無回答	合計
13-14 睡眠起床が困難になった	2	3	9	101	0	1	116
	1.7%	2.6%	7.8%	87.1%	0.0%	0.9%	100.0%
13-15 手足がしびれた	1	3	4	107	0	1	116
	0.9%	2.6%	3.4%	92.2%	0.0%	0.9%	100.0%
13-16 発疹などのアレルギーが出た	1	2	2	110	0	1	116
	0.9%	1.7%	1.7%	94.8%	0.0%	0.9%	100.0%
13-17 視力が落ちた	2	1	6	106	1	0	116
	1.7%	0.9%	5.2%	91.4%	0.9%	0.0%	100.0%
13-18 血圧が高くなった	2	2	5	106	0	1	116
	1.7%	1.7%	4.3%	91.4%	0.0%	0.9%	100.0%
13-19 持病が悪化した病名 ()	2	2	1	101	5	5	116
	1.7%	1.7%	0.9%	87.1%	4.3%	4.3%	100.0%

13-19 て挙げられた病名

高血圧症(1)

頚椎ヘルニア(3)

緑内障(2)

13-20 その他

手先うがいをしたので逆に健康になった(1)

【14】心の支えや安心感につなかったこと

	あった (A)	なかった (B)	無効 回答	無 回答	合計
1)日本や外国の家族・実家や友人からのお見舞い	99	17	0	0	116
	85.3%	14.7%	0.0%	0.0%	100.0%
2)香港に留まった人達との電話 メールや集まり	96	19	1	0	116
	82.8%	16.4%	0.9%	0.0%	100.0%
3)本社からの見舞いの一言	87	28	1	0	116
	75.0%	24.1%	0.9%	0.0%	100.0%
4-a)社内で提供される SARS 関連情報	113	3	0	0	116
	97.4%	2.6%	0.0%	0.0%	100.0%
4-b)社内の消毒 消毒用アルコールの設置	111	4	0	1	116
	95.7%	3.4%	0.0%	0.9%	100.0%
5)家族の一時帰国費用の会社負担	99	7	6	4	116
	85.3%	6.0%	5.2%	3.4%	100.0%
6)家族か一時帰国で香港を離れられたこと	71	24	9	12	116
	61.2%	20.7%	7.8%	10.3%	100.0%
7)自分に SARS が疑われる時の診察費の会社負担	79	24	2	11	116
	68.1%	20.7%	1.7%	9.5%	100.0%
8)一緒に香港に留まってくれた家族の存在	24	72	9	11	116
	20.7%	62.1%	7.8%	9.5%	100.0%
9)香港社会を励ますようなボランティア活動への参加(例 日本人有志による千羽鶴の贈呈等)	37	71	3	5	116
	31.9%	61.2%	2.6%	4.3%	100.0%
10)野外での活動(スポーツや散歩等)	79	35	0	2	116
	68.1%	30.2%	0.0%	1.7%	100.0%
11)相談できる日本人の精神科医 心理カウンセラーの存在	15	95	2	4	116
	12.9%	81.9%	1.7%	3.4%	100.0%
12)香港政府の情報開示の姿勢	109	5	0	2	116
	94.0%	4.3%	0.0%	1.7%	100.0%

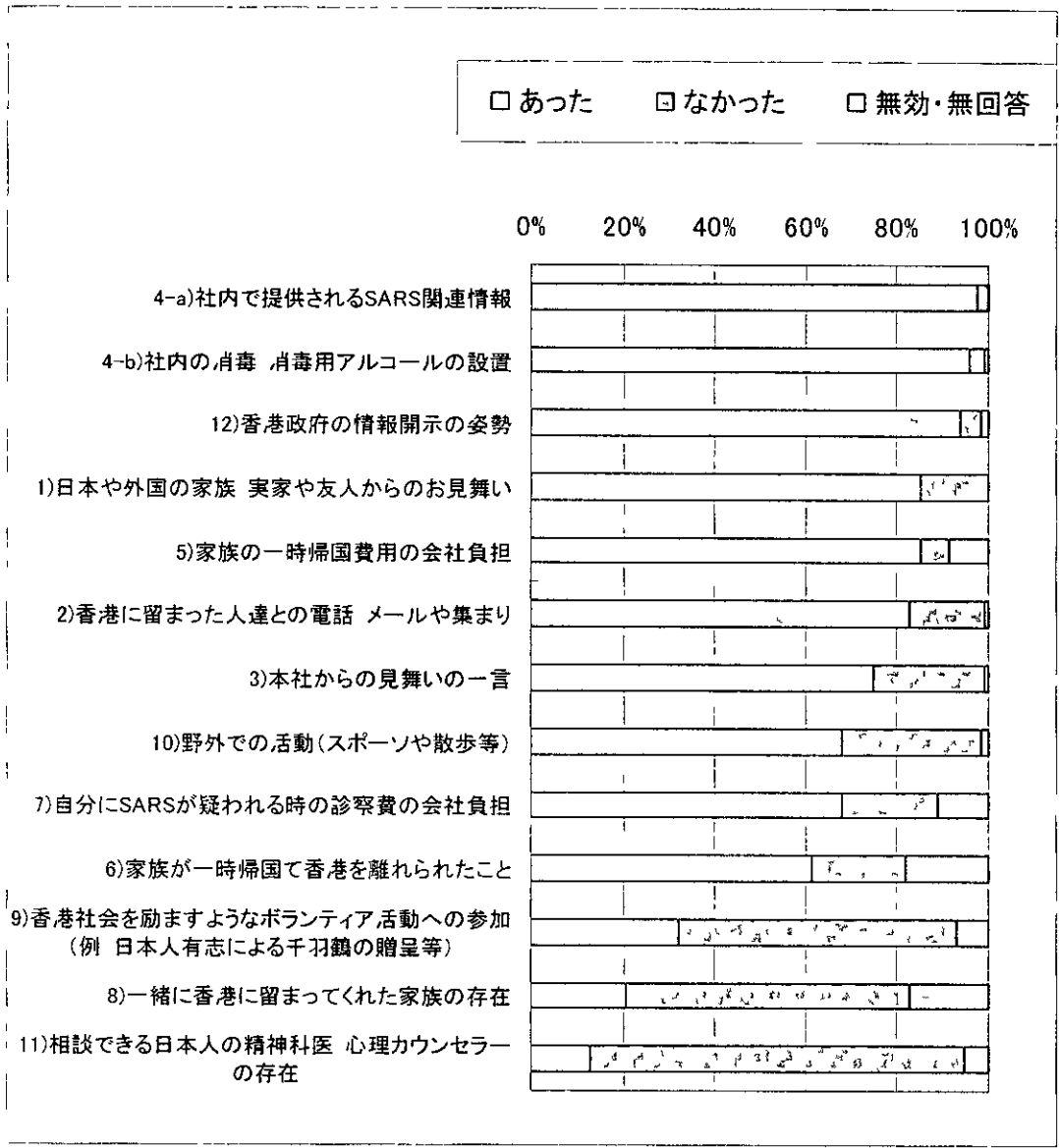


図 1-1 【14】心の支えや安心感につなかったことの有無（駐在員）(n=116)

非常に心の支え 安心感につながった (1) かなり心の支え 安心感につながった (2)
 少しは心の支え 安心感につながった (3) まったくつながらなかった (4)

	あった						なかった			
	1	2	3	4	無 回答	小計 (A)	あれば よかつ た	なくても 構わな い	無 回答	小計 (B)
1)日本や外国の家族 実家や友人からの お見舞い	16 16.2%	31 31.3%	43 43.4%	7 7.1%	2 2.0%	99 100%	3 17.6%	14 82.4%	0 0.0%	17 100%
2)香港に留まった人達との電話 メールや集 まり	26 27.1%	32 33.3%	32 33.3%	4 4.2%	2 2.1%	96 100%	0 0.0%	17 89.5%	2 10.5%	19 100%
3)本社からの見舞いの一言	3 3.4%	10 11.5%	49 56.3%	23 26.4%	2 2.3%	87 100%	13 46.4%	14 50.0%	1 3.6%	28 100%
4-a)社内で提供される SARS 関連情報	19 16.8%	39 34.5%	48 42.5%	5 4.4%	2 1.8%	113 100%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	3 100%
4-b)社内の消毒 消毒用アルコールの設置	20 18.0%	32 28.8%	52 46.8%	5 4.5%	2 1.8%	111 100%	0 0.0%	3 75.0%	1 25.0%	4 100%
5)家族の一時帰国費用の会社負担	30 30.3%	29 29.3%	24 24.2%	14 14.1%	2 2.0%	99 100%	3 42.9%	2 28.6%	2 28.6%	7 100%
6)家族か一時帰国で香港を離れられたこと	26 36.6%	23 32.4%	13 18.3%	7 9.9%	2 2.8%	71 100%	6 25.0%	15 62.5%	3 12.5%	24 100%
7)自分に SARS が疑われる時の診察費の 会社負担	15 19.0%	16 20.3%	25 31.6%	22 27.8%	1 1.3%	79 100%	12 50.0%	5 20.8%	7 29.2%	24 100%
8)一緒に香港に留まってくれた家族の存在	14 58.3%	5 20.8%	2 8.3%	2 8.3%	1 4.2%	24 100%	12 16.7%	50 69.4%	10 13.9%	72 100%
9)香港社会を励ますようなボランティア活動 への参加(例 日本人有志による千羽鶴 の贈呈等)	6 16.2%	14 37.8%	10 27.0%	5 13.5%	2 5.4%	37 100%	12 16.9%	48 67.6%	11 15.5%	71 100%
10)野外での活動(スポーツや散歩等)	23 29.1%	24 30.4%	24 30.4%	6 7.6%	2 2.5%	79 100%	4 11.4%	24 68.6%	7 20.0%	35 100%
11)相談できる日本人の精神科医 心理カウ ンセラーの存在	1 6.7%	4 26.7%	5 33.3%	4 26.7%	1 6.7%	15 100%	21 22.1%	59 62.1%	15 15.8%	95 100%
12)香港政府の情報開示の姿勢	14 12.8%	43 39.4%	47 43.1%	2 1.8%	3 2.8%	109 100%	1 20.0%	2 40.0%	2 40.0%	5 100%

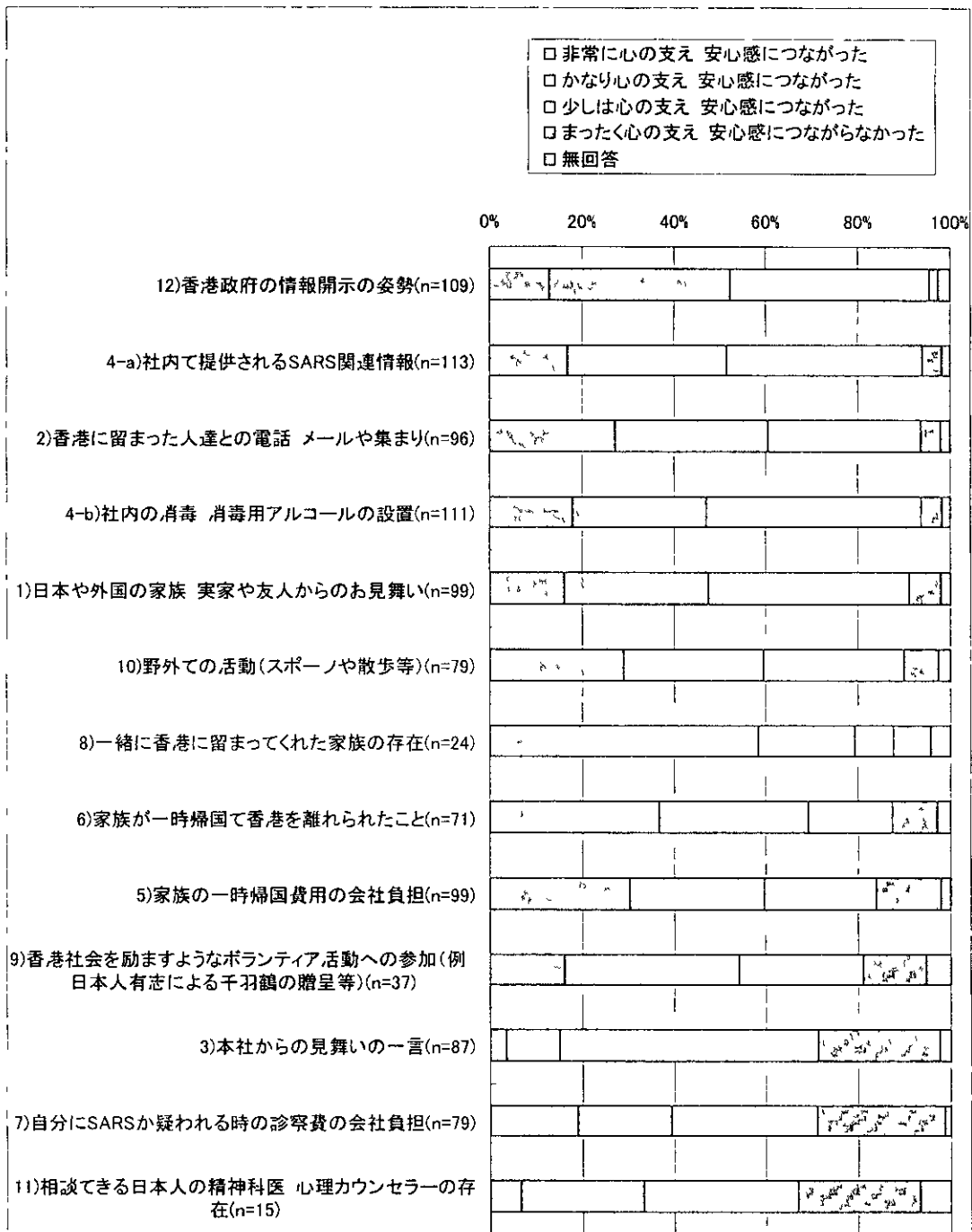


図 1-2 【14】心の支えや安心感につながったことへの評価（駐在員）
 (nはそれらが「あった」と答えた者)